これからの時代にチャレンジしていく
リーダーシップ研修

かめのり

未来をつくる
リーダーシップ プロジェクト
2024

Kamenori Academy for Future Leaders 2024

実施レポート

『全員発揮型のリーダーシップ』について理解を深め
必要な『スキルを身につける』ことを目指す

全員発揮型のリーダーシップは
権限や立場に関係なく個々の強みを活かして発揮できるものであり、学習可能です
一人ではなく、全員が発揮することで結果につながります
また、研修を通して、集団や社会で活動するために必要な生きる力（＝ライフスキル）を身につけます

主な実施内容

◎3種類の研修で、全国各地から集まった高校生と大学生が学び合う

テーマ	学習スタイル	目　標
オリエンテーション・知り合う活動	オンライン研修 11/13（水） 20：30-22：00	▶研修の目的を理解し、リーダーシップを発揮することや身につけることに意欲をもつ。 ▶知り合う活動を通して、チームとして活動できる土台をつくる。
自己認識・学びの基本スキル	オンデマンド学習 （各自）	▶現在の社会の特徴を理解するとともに、自己認識の重要性に気づく。 ▶学びや成長のために必要な3つのスキルを学び、活用できるようになる。
自己認識	オンライン研修 11/20（水） 20：30-22：00	▶マインドフルネスを通して自己認識を行い、ありたい姿や本当の自分を明らかにする。
リーダーシップ・チームワーキング	オンデマンド学習 （各自）	▶現在の社会では、全員発揮型のリーダーシップが必要であることを理解する。 ▶チームで取り組むためのチームワーキングのポイントをつかむ。
リーダーシップ・学びの基本スキル	オンライン研修 11/27（水） 20：30-22：00	▶リーダーシップについての自分の考えを発表し、交流することで、自らのリーダーシップをより明確にする。 ▶学びの基本となる「傾聴・ふり返り・フィードバック」という3つのスキルへ取り組み、スキルのポイントをつかむ。
社会課題	オンデマンド学習 （各自）	▶社会課題に意味を知り、解決する必要性を感じる。 ▶社会課題を解決するプランを構築するためのヒント（手順や方法）を学ぶ。
社会課題の解決を通して自分のリーダーシップを育てる	宿泊研修 12/7（土）11：00- 12/8（日）15：30	▶チームワーキングを意識したグループ活動に取り組み、自らが当事者意識をもって活動に貢献する。 ▶活動を通して、自らの強みなどのリソースに気づき、自分らしいリーダーシップのあり方を見つける（身につける）。

リーダーシップ行動内容の変化

◎リーダーシップ行動内容、全項目で向上！

宿泊研修の開始前と終了後に、参加者は同じ「リーダーシップチェックシート」に回答し、研修によるリーダーシップ行動内容の変化をはかった。特に、「メンバーの力を引き出す」「目標・計画を共有する」が大きくプラスになった。大学生のみでは「自分を客観的に見る」が大きく伸びており、一昨年の大学生では結果がマイナスを示していたことから考えると、大学生の成長が著しいことが推測される。一方、「自分自身が成長する」は最も低い伸びを示した。大学生がチームメンバーのサポートに傾注し、自分自身のことへ意識が回らなかったことも考えられるが、すでにリーダーシップについて高い意識やスキルがあることで、成長を意識することができなかったとも考えられる。また、「チャレンジする」は、高校生は大きくプラスになっているが、大学生ではそこまでプラスではなかった。これは、このプロジェクトが高校生にとってチャレンジへの意欲を掻き立てる舞台となり、影響を与えたのではないかと考えられる。（講師：横田）

カテゴリー	リーダーシップ行動内容
個の確立	自分自身が成長しようとする
	チャレンジする
	立ち直る
	流されない自分を作る
	他者へ協力を求める
	自分を客観的に見る
環境整備・同僚支援	お互いに認め合う
	相互に意見交換する
	前向きな雰囲気を作る
	仲間を助ける
	メンバーの力を引き出す
目標設定・共有	みんなで理想を描く
	目標を立てる
	計画を立てる
	目標・計画を共有する
	進捗を管理する

フォローアップ研修

3月某日、オンラインでフォローアップ研修を実施しました。宿泊研修までの経験がどう活きているか、新たに見つかった課題は何かなどを意見交換。それぞれの意見や考え方の違いを知り、その違いに魅力があることや新たな気付きから、今後の行動につなげていこうという話題になりました。また、リーダーシップスタイルの歴史や最先端のリーダーシップに関する講義も行いました。

参加者の声

◎修了者／21名（高校生6名・大学生15名）

言葉にして自分も他人も肯定する

この研修を通して、リーダーシップ以外に得られたことは、自己肯定感の大切さです。自分を否定しがちでしたが、私たちのチームは、皆の自己肯定感が高く、他人に対しても肯定する姿勢を持っていたため、チームとして上手く機能していたと感じました。自分を否定しすぎると本来の自分の良さも失うことに繋がります。そうならないためにも、自分も他人も認め、言葉にして肯定することが大事であると感じました。

他者からの評価で自分を知る

自分では気づかなかった魅力や、新たに必要な能力にたくさん気づくことができたのがとても大きな経験になりました。活動内で、他のメンバーは理解できているのに、自分は整理しきれていないという場面もあって、自分の能力不足を感じました。しかし、他のメンバーから論理的に考えられていたところや、分からないことを分からないと言えるところを評価してもらえました。自分では悪い点しか見えていなかったので、とてもありがたかったです。

自分ができることを探して行動する

この研修に参加する前の私の課題は、人に頼ることでした。リーダーという立場に立ってしまうとどうしても自分が全部をやらなくてはいけないという気持ちになる傾向があります。しかし、今回は全員発揮型のリーダーシップということで、自分だけがやるというマインドではなく、全員が自分ができることを探して行動することができました。だから、私も必要なことは人に頼ることができたし（助け合いができた）、リーダーという立場を持っている人がどうやったら進行しやすくなるのか考えながら動くこともできたと思います。

特設ページ

URL: **https://kafl.jp/**

講師より

横田 秀策

▶国家資格キャリアコンサルタント

▶産学連携教育イノベーター育成プログラム（リーダーシップ開発育成コース:立教大学）修了

他者と向き合い、自分を深めた時間

▶今回の宿泊研修では、社会課題の解決に向けてチームで取り組む過程で、遺憾無くさまざまなリーダーシップが発揮されました。チームメンバーの知識や経験の差を理解したうえで活動を進めたり、批判的な発言に対して冷静に受け止めて建設的に取り組んだりしていました。リーダーシップとは「チームや組織の目標達成に向けて、他者に及ぼす影響力」を意味しますので、苦しい状況の中でも、リーダーシップを十分に発揮したのではないかと思います。

また、今年の受講生たちは、身近なところから社会課題へのテーマを見つけようとし、そのテーマがどのようなものなのか、どうすれば解決に向かえるのかをしっかり話し込む姿が印象的でした。その点において、チームにおける対話量が多かったと思います。その結果、いずれのチームの発表も深く入り込むことができ、素晴らしいものになりました。話し込む過程でも、さまざまなリーダーシップを受講生は発揮し、獲得していったようでした。

佐渡 涼子

▶ADHD／EFコーチ、親コーチ

▶ニューヨーク大学大学院応用心理学修了（修士）

参加者の成長と対話の軌跡

▶今回、お互いの性質やコミュニケーション力に関する感想がきかれ、「リーダーシップ」だけではなく、そのスキルを取り巻く他のスキルの大切さや上達を目指したい様子が伺えました。参加者一人ひとりが「個」をしっかりと持っている背景があったのだと思います。今回の参加者は「社会課題」も自分事として捉えて、実現可能な解決方法を提案してくれました。各グループがこの結論にたどりつくまでには、いろいろな課題に直面し、話し合っていたように思います。グループ内で衝突する場面や意見が対立するなどもあったと思われますが、それぞれがそれを前向きに捉えて、自身の成長に繋いでいく様子が見られました。特に印象的だったのは、「目の前の課題だけを見る狭い視野」ではなく、まず社会全体や広い視点（マクロ）から課題を捉えたうえで、それを自分たちの現場や身近な問題（ミクロ）に置き換えて考えていたことです。まさに、「マクロを見てミクロにして、身近にした」姿勢が感じられました。いろいろな角度からとても大切な過程を経て、さまざまなリーダーシップについて考える機会になったと感じています。

〈主催〉

公益財団法人
かめのり財団

〒102-0083
東京都千代田区麹町5-5　ベルヴュー麹町1F
HP: https://www.kamenori.jp/

〈実施団体・連絡先〉

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒150-0043
東京都渋谷区道玄坂1-21-1 SHIBUYA SOLASTA 3F
TEL: 050-1742-4922　E-mail : info@jiyd.org